

# 中枢中核都市における全蓋式アーケード商店街のハード/ソフト面からみた特性

中枢中核都市 アーケード 商店街  
 パサージュ プロムナード

1915024 坂本稜太  
 指導教員: 脇坂圭一

## 1. 研究の概要

### 1-1. 背景

全蓋式アーケードは雨や風など様々な環境要因を凌ぎ、古くから人間の活動領域を形成してきた。しかし近年、大型商業施設の流行や車社会の定着化による商業店舗の郊外化の影響等で、商店街は衰退し、アーケードは撤去されつつある。また、政策の増加と多様化により特に中心市街地では、下駄履き型の高層マンションが流行し、地域の歴史や文化が失われつつある。

そこで本研究では、地域の経済を支える拠点となり政府から様々なかたちで支援を受ける<sup>文1)</sup> 中枢中核都市 (全 82 市) <sup>注1)</sup> を対象として、ハード面、ソフト面の両面から人が集まる全蓋式アーケード商店街の特性においての共通点や地域性を明らかにすることを目的とする。加えてアーケードの原初であるパサージュとの比較も行い、日本の全蓋式アーケード商店街独自の特性を明確化する。本論文の結果は、今後の商店街存続においてのひとつの指針となり、失われつつあるアーケードの保持と、衰退を続ける商店街の復興、そして地域の歴史と文化の継承に資するものとなるだろう。

### 1-2. 本論文の位置づけ

既往研究<sup>文6) 文7)</sup> では、特定要素に着目した空間分析や特定地域に着目した分析はあるものの、日本全国のアーケード商店街を網羅的に対象とし、ハード面、ソフト面の両面から多角的に分析を行った研究はまだなされていない。

## 2. 研究の対象と方法

### 2-1. 研究対象事例

中枢中核都市内には計 432 の全蓋式アーケード商店街が現存している。そこから以下の条件を設けて選定候補を選定する。1) アーケード全長 100m以上、2) 横丁・市場は除く、3) 公式サイトを運営、4) 稼働施設が半数以上。

これらの条件により選定候補は 107 に絞られる。そこから以下を基にさらに絞り込みを行い、研究対象事例を選定する。1) グーグルアース (2022 年 4 月時点) による疑似散策にて施設等劣化状況の確認、2) グーグルアースによる疑似散策にて歩行者通行量の確認、3) 市や国が開示している集客数や歩行者通行量の確認、4) 2000 年以降に大規模再開発を行っ

た商店街を除く。

以上より現在も賑わいをもつ 24 の全蓋式アーケード商店街を選定した。さらにシャッター街化が進みつつある事例として静岡県の 2 事例を追加した計 26 の事例を対象に研究を行った (表 1)。

表 1 研究対象事例 (26 事例)

No	地域	所在地	商店街	アーケード竣工年 (リニューアル)	全長 (m)	店舗区画数	空き店舗率	
1	北海道	北海道札幌	狸小路商店街	1982	846	211	7.1	
2	東北	宮城仙台	ハピナ名義丁商店街	1965(1993)	200	88	8.0	
3			クリスマスロード商店街	1965	284	151	4.0	
4			マーブルロードおおまち商店街	1965(1996)	138	72	23.6	
5			サンモール一番通り商店街	1954	240	42	9.5	
6	関東	栃木県宇都宮	ぶらんどーむー番街	1954(1993)	197	146	4.1	
7			オリオン通り商店街	1967(1990)	266	80	22.5	
8			オリオン通り商店街(曲師町)	1967	200	78	6.4	
9	中部	愛知県名古屋	大須新天地通り商店街		230	51	0	
10			万松寺通り商店街		380	113	5.8	
11			東仁王門通り商店街		270	55	0	
12	中部	静岡県浜松	砂山銀座サザンクロス商店街	1968	110	20	85.0	
13			清水駅前銀座商店街	1967	434	105	26.7	
14	近畿	大阪府大阪	心斎橋筋商店街		569	138	6.5	
15			兵庫県神戸	六甲本通商店街	1948(1988)	100	50	0
16	中国	京都府京都	新京極商店街	1956(1981)	525	170	8.8	
17			上之町商店街	1957(1991)	190	55	18.1	
18			中之町商店街	1957	160	81	19.8	
19			下之町商店街	1957	200	54	25.9	
20			栄町商店街	1957	145	51	39.2	
21			紙屋町商店街	1957	117	38	34.2	
22	四国	愛媛県松山	広島県広島	広島本通り商店街	1955	580	143	2.0
23			大街道	1982	483	137	6.3	
24			福岡県博多	博多川端商店街	1971	400	137	10.9
25			熊本県熊本	新市街商店街	1979(1992)	236	37	5.4
26	大分県大分	オレリア竹町	1953(1994)	349	107	7.0		

### 2-2. 研究の方法

#### 1) 図面作成

図面の作成は主にグーグルアースプロ (2022 年 4 月時点) より高さや幅等数値を読み取り行った。尚現地に赴く機会を確保できた No. 1, 2, 3, 4, 5, 6, 13 については、レーザー距離計測器を用いて実測を行った。実測は商店街の両端で行い、2 つの値の平均値を取り扱っている。樹木やベンチ等の配置についてはグーグルアースプロより拾い上げた。

#### 2) 空き店舗率及び業種構成の計測

業種別比率とチェーン店舗率は、各商店街の公式サイト (2022 年 6 月時点) 記載の店舗情報より読み取った。空き店舗率については各商店街の運営陣に連絡をとり、ご提供いただいた情報を基に割り出した。情報を得られなかった商店街については公式サイトの店舗情報に記載されている店舗の営業状況を

グーグルのローカルリスティング情報を基に調査して割り出した。

### 3) 研究する要素と方法

ハード面では広域計画の分析として、商店街周辺施設等との関係を図面を用いて調査。ディテール計画の分析として、照明やフラッグ樹木、ベンチ等の配置も同じく図面を用いて調査した。

ソフト面では業種別割合やチェーン店舗率等商店街の構成についての分析として主にグラフを用いて調査した。

### 3. 断面図及び広域マップ・平面図からみたハード面における特性

#### 3-1. 断面図による分析

##### 1) 縦横比

本説では、ドーム頂部までの高さをH、両脇の建物間をDとしてD/Hを計測した。平均値は0.9（最大値1.5、最小値0.5）となり、建築家の芦原義信が高さと幅の均整がある縦横比として述べている<sup>文3)</sup>1.0に近い結果となった。

##### 2) 照明の配置とデザイン

本説では、まず照明をスポットライト等を含む「直接型照明」とブラケット等を含む「全般拡散型照明」の2つに分類した。さらに直接型照明を照射方向から「直接型垂直照射照明」と「直接型対角照射照明」に分類した。ここに「照明なし」を加えた計4つの分類と各商店街の空き店舗率を用いて照明設計と商店街の賑わいについての関係性を探った（図1）。

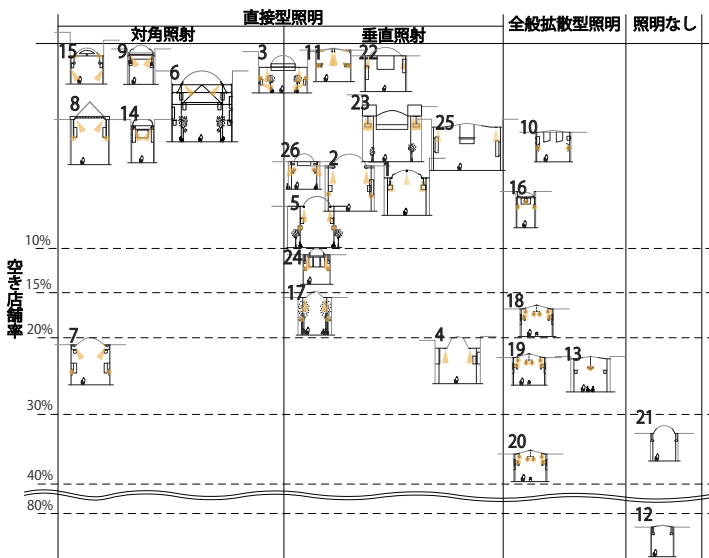


図1 照明手法と空き店舗率の関係図

まず、照明を用いていない商店街の空き店舗率が高いことから、全蓋式アーケード商店街において照明設計は極めて重要な要素であることが分かった。

一方、直接型対角照射照明を用いている事例は7事例（No. 3, 6, 7, 8, 9, 14, 15）あった。うち6事例が空き店舗率10%以下となった。さらに全体として「照明なし」、「全般拡散型照明」、「直接型垂直照射照明」、

「垂直対角照射照明」となるにつれて空き店舗率が徐々に低い値に収束していく傾向がみられた。これらのことから全蓋式アーケード商店街の照明設計においては直接型照明の計画が重要であり、特に対角照射照明は有効な照明手法であることが分かった。

### 3) 樹木 / 植栽とベンチの配置

本説では、商店街全体の取り組みとして配置された樹木 / 植栽、ベンチのみを拾い上げた。

まず、樹木 / 植栽が配置されている商店街では必ずベンチも配置されていることが分かった。樹木 / 植栽とベンチの両方が配置されている商店街は5事例（No. 3, 5, 6, 17, 22）あった。うち4事例は空き店舗率10%以下となり、樹木 / 植栽とベンチ配置の有効性がみられた。空き店舗率18.1%となったNo. 17は商店街の幅が8.5m（全事例平均：9.9m）となり、他4事例と大きく差があった（4事例の幅平均値14.4m）。このことから幅の狭い商店街での樹木 / 植栽配置はかえって空き店舗率を上昇させてしまう可能性があると考えられる。樹木の配置は影の占める割合を増加し、また歩道を狭めるといった欠点を持ち合わせている。幅の狭い商店街ではその欠点によるマイナス作用が大きく影響しているのではないかと推測する。

### 4) フラッグの配置

調査を行っていく過程で全蓋式アーケード商店街におけるフラッグはアーケード中央に配置される場合とアーケードサイドに配置される場合があることが分かった。そこで本説では、フラッグの配置を「中央・サイド配置型」、「中央配置型」、「サイド配置型」、「フラッグなし」の計4つに分類し、フラッグの配置と商店街の賑わいの関係性を探った（図2）。

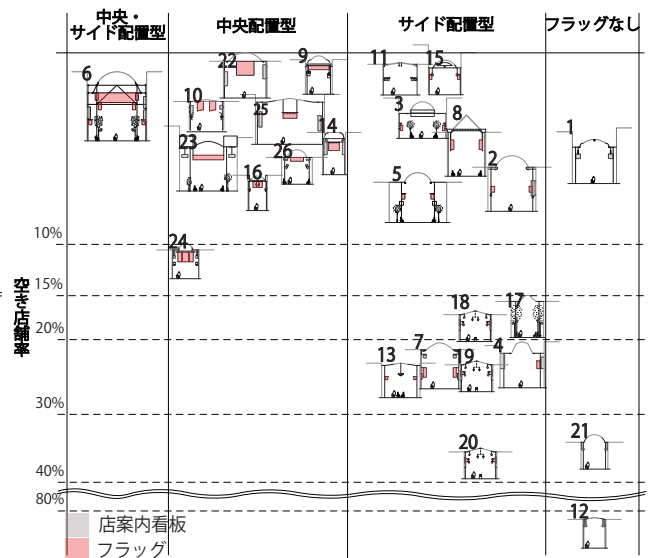


図2 フラッグ配置と空き店舗率の関係図

中央配置型の商店街は10事例（No. 6, 9, 10, 14, 16, 22, 23, 24, 25, 26）あった。うち9事例は空き店舗

率 10%以下となった。No. 24 は空き店舗率 10.9%となっており、10%以上ではあるものの他の事例と大差はない。これらの点から商店街のフラッグの配置においては中央での配置が特に有効であることが分かった。

中央に配置されたフラッグは面積が大きく情報量と視認性が高い。この特性がイベントや商店街、そして地域のPR力向上に大きく貢献していると推測した。

### 3-2. 広域マップ・平面図による分析

他商店街と連結する「連結型商店街」は 20 事例あった。さらにそれを一概に連結ではなく、T型・L型・十字型に他商店街と交わる「T型・L型・十字型商店街」に絞ると 11 の事例 (No. 4, 5, 6, 9, 10, 11, 16, 21, 22, 24, 25) が抽出された。「連結型商店街」は 20 事例中 7 事例が空き店舗率 10%以上だったのに対して、「T型・L型・十字型商店街」は 11 事例中 2 事例のみが空き店舗率 10%以上となった。さらに「T型・L型・十字型商店街」には空き店舗率 0%を記録した No. 9, 11 が該当した。これらのことから特に他商店街と交わりを持つ「T型・L型・十字型商店街」は空き店舗率が低い傾向にあるといえる。

さらに、「T型・L型・十字型商店街」11 事例のうち、6 事例は大型商業施設と一体化した商店街だった。「T型・L型・十字型商店街」は経路が増加し、また接点に広場ができる場合が多いため、回遊性が高く規模の大きな商店街になる傾向がある (図 3)。つまり商店街の規模が大きくなると、大型商業施設の参入の可能性が高くなると思われる。

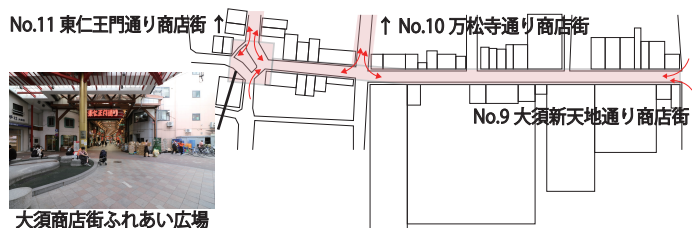


図 3 「T型・L型十字型商店街」、回遊性向上と広場の発生

また、大型商業施設と一体化した事例は計 8 事例あったが、うち 6 事例は空き店舗率 10%以下となった。大型商業施設の流行は商店街が衰退した大きな要因とされているが、大型商業施設との一体化は必ずしも商店街を衰退させる訳ではないといえよう。

## 4. 業種構成及びイベントからみたソフト面における特性

### 4-1. 業種構成による分析

本説では、中小企業庁が公表している商店街実態調査の資料を参考に「飲食店」、「衣料品・身の回り品等」、「サービス店」、「医療・保育・教育施設」、「百貨店・大型ディスカウント店」、「その他」の計 7 つに業種を分別して計測を行った。

まず駅までの道のりが短くなるにつれて飲食店の割合が高い値に収束する傾向がみられた (図 4)。

居酒屋の店舗数が増加し、飲食店の割合が大きくなっているのだと推測する。居酒屋は深夜帯までの営業が多いため、全蓋式アーケードの欠点である夜の暗さが緩和されている。しかし一方で、昼間はシャッターが目立ち、昼夜格差が生まれているのが現状である。

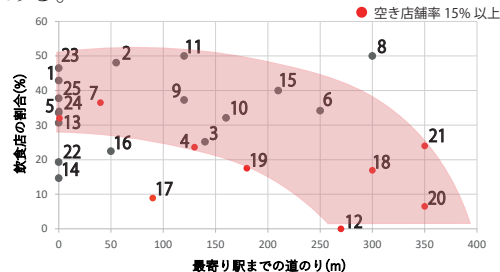


図 4 飲食店の割合と駅までの道のり距離の関係

### 4-2. チェーン店舗率による分析

チェーン店舗率を商店街の平面構成を並列してみると「T型・L型・十字型商店街」はチェーン店舗率が高い傾向にあることが分かった。全国の商店街における平均チェーン店舗率は 10.4%であるのに対して「T型・L型・十字型商店街」の平均は 21.9%となり、10%以上の差があった。大型商業施設同様に回遊性が高く規模の大きな商店街には比較的規模の大きいチェーン店舗の参入が頻繁に起こっているのだと推測した。

### 4-3 商店街のイベントによる分析

本説では、イベントの中でも商品券や抽選券、ビンゴ券等 (以下、商品券等) 商店街全体を巻き込み、商店街全体の連携が必要となるイベントに着目した。商品券等を行っている商店街は 22 事例あった。商品券等を行っていない商店街 4 事例のうち 2 事例 (No. 12, 13) は空き店舗率が極めて高い結果となり、商品券等商店街全体を巻き込むイベントの有効性がみられた。

## 5. パサージュとの比較

本説では「パサージュ / 遊歩の商業空間」<sup>文4)</sup>に記載されている事例のうち、特にパサージュが流行し始めた 1799 年から 1830 年に焦点を当て、7 つの事例を選定した (図 5)。

### 5-1. 断面図による比較

パサージュ 7 事例の D/H の平均値は 0.6 となった。また日本の事例で多くみられた直接型照明とフラッグがパサージュではほとんどみられなかった。反対に日本の事例で少なかった樹木 / 植栽若しくはベンチの配置がパサージュでは多くみられた。これらの特性には構造上の差異が影響していると思われる。パサージュは遊歩空間に柱が発生しない (図 6)。

この柱の有無が遊歩空間の圧迫感を左右していると推測した。日本の場合、巨大な柱の間に樹木やベンチが配置されるため、密度が高く圧迫感が生まれる。しかし、パサージュは柱がない。そのため日本の商店街ほどの幅を持たずとも植栽やベンチの配置

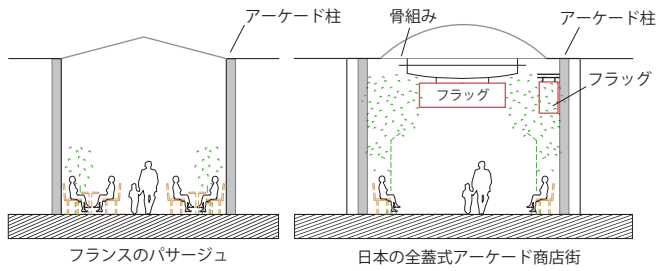


図6 パサージュと商店街のアーケードの違い

を行うことが可能と思われる。

また、フラッグは柱や骨組みを用いて装飾される場合が多い。パサージュの遊歩空間には柱や骨組みが現れないためフラッグの配置が行われにくいのだと思われる。

### 5-2. 業種構成による比較

パサージュの業種別構成は「パサージュ / 遊歩の商業空間」に記載されているテナントリスト (1999年調査) を基に計測した。パサージュは、日本のショッピングモール同様に買回り品販売店主体の構成となっていることが分かった (図7)。

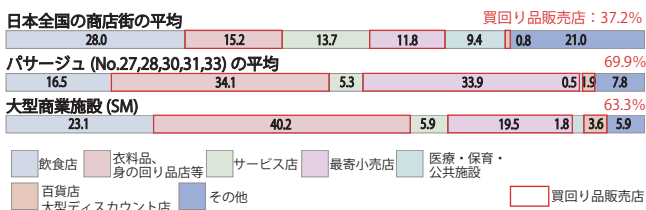


図7 パサージュ、商店街の平均業種別構成と某ショッピングモールの業種別構成

参勤交代など町を訪れる大名たちに対して町人たちが切磋琢磨して発展した日本の商店街は自然発生的であり、特定の運営体が存在しなかったため様々な業種が乱雑に存在し、現在の偏りのない業種構成が形成されたと推測する。一方、特定階級の不動産の流動化により富裕な財産所持者や銀行家等が不動産投資して発展したパサージュは任意発生的であり、特定の運営体が存在したため計画的な業種比率構成が施され、現在の買回り品販売店主体の業種構成が形成されたと推測する。ショッピングモールも任意的発生且つ特定の運営体による運営であるため同じような傾向がみられたと思われる。

### 6. 総括

本研究では、以下の特性が見出された。1) 照明を用いていない商店街は空き店舗率が高い、2) 直接型照明の計画が重要であり、特に対角照射照明は有効な照明手法である、3) 幅の狭い商店街での樹木 / 植

栽配置はマイナス作用が働く可能性が高い、4) フラッグの配置においては中央での配置が特に有効である、5) T型・L型・十字型商店街は空き店舗率が低い、6) 大型商業施設との一体化は必ずしも商店街を衰退させる訳ではない、7) 駅までの道りが短くなるにつれて飲食店の割合が高いに収束する、8) 回遊性が高く規模の大きな商店街にはチェーン店舗の参入が頻繁に起こる、9) 商品券等商店街全体を巻き込むイベントは有効的、10) 直接型照明とフラッグはパサージュではほとんどみられない、11) パサージュはショッピングモール同様に買回り品販売店主体の構成となった。(計27特性より抜粋)

現在、郊外型ショッピングモールなど大型商業施設の流行による店舗の郊外化と車社会定着化の影響で商店街は衰退の途を辿っている。しかし、商店街の賑わいを左右しているのは外部要因に限った事ではない。本研究の結果から、照明、フラッグ、樹木等の配置や業種構成、イベントなど商店街内部にも賑わいを左右する要素が多くあることが分かった。

近年、商店街の再開発事業としてアーケード撤去やアーケード大規模再改築等が頻繁に行われる傾向にある。しかしそれらの事業は多大なる資金が必要となり、また全蓋式アーケード商店街のもつ歴史が失われてしまう。本研究の結果等を基に、まずは商店街内部の各要素の見直しと改善を行い、商店街の賑わい創出とアーケードの保持、そして全蓋式アーケード商店街の歴史を継承していくべきではないだろうか。

### 7. 今後の展望

今後の展望として実測を通じて具体的な数値を把握していきたい。またフランスのみならず世界各国のアーケードと日本の全蓋式アーケードを比較し、世界規模での地域性を見出す今後のアーケード商店街の在り方について検討していく必要がある。

#### 注釈

注1) 中核中核都市：日本政府より2018年12月に選定

#### 参考文献

- 文1) 国土交通省「中核中核都市及び支援策の概要」、2020.12
- 文2) 中小企業庁「令和3年度商店街実態調査報告書詳細版」、2021
- 文3) 芦原義信「街並みの美学」、岩波文庫、1979
- 文4) 新井洋一「パサージュ / 遊歩の商業空間」、株式会社商店建築社、2000
- 文5) ヴァルター・ベンヤミン「パサージュ論第1巻」、岩波現代文庫、2003
- 文6) 竹下賢治「地方都市の中心市街地商店街におけるアーケード撤去の実態と効果に関する考察 福知山市広小路商店街における片側アーケード撤去の事例として」、日本建築学会大会学術講演梗概集、2016.8
- 文7) 高須八千代・鯉坂徹・増留麻紀子「天文館アーケードの空間特性に関する研究」、日本建築学会研究報告、2015.3

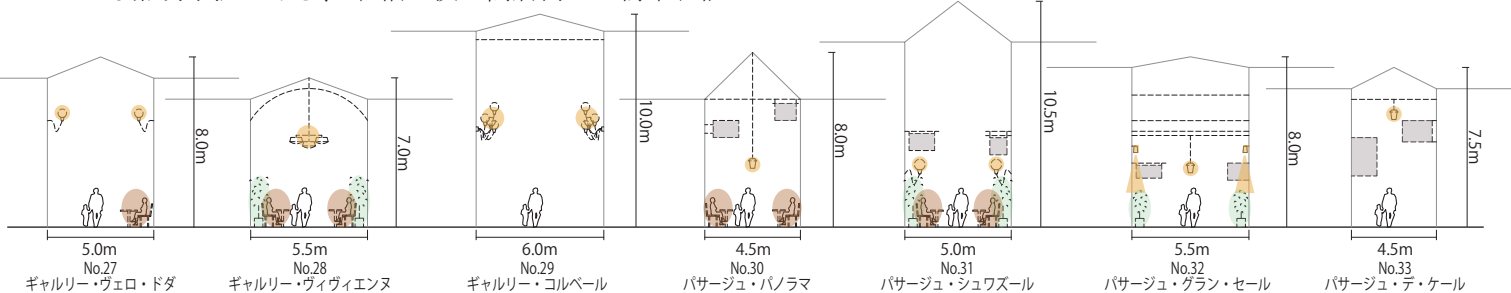


図5 パサージュ研究対象事例一覧